様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３４４２９
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｈ０４５４０

研究課題名（和文）アレヴィー諸集団の境界と認識のコンフリクト及びエスニシティの変容ー中東と欧米

研究課題名（英文）Conflicts in boundearies and recognition of Alevi groups and changes in Alevi ethnicities in the Middle East, Europe and America

研究代表者
佐島　隆（Sashima, Takashi）

大阪国際大学・公私立大学の部局等・名誉教授

研究者番号：４０１９２５９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,400,000円

研究成果の概要（和文）：多文化社会の中でイスラム的伝統文化をもつ非主流集団のアレヴィー諸集団には、多様な境界が生じることがある。境界が発生することによりエスニシティ・集団性が明瞭になりうる。その境界の周辺に生じるエスニシティやコンフリクト等を歴史学や宗教人類学の観点から明らかにしてきた。今回の繰り越し期間ではトルコ、独、仏、豪のアレヴィー関連諸集団、アルバニアのベクタシ集団、イランのアフレ＝ハックを実態調査し検討し報告した。そして国家や地域共同体を越えるトランスカルチュラル空間の中でのアレヴィー諸集団・文化の持続、変化、創造を明らかにし、アリー崇拝、聖者崇拝、廟墓参詣行動をも検討し、報告書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
非主流集団、マイノリティそして移民を含むアレヴィー関連諸集団の実態調査、歴史学的文化人類学的研究をし、他集団との間に生じる境界、差異を明らかにし境界に起きるコンフリクト（軋轢、排除、対立等）を明らかにし、多文化社会のムスリム社会の中で非主流集団のエスニシティの変化や生存戦略を明らかにしてきた。今回はトルコ、独、仏、豪のアレヴィー関連諸集団、アルバニアのベクタシ集団、イランのアフレ＝ハックを実態調査しエスニシティや境界に生じるコンフリクト等を明らかにした。さらに国家や地域共同体を越えるトランスカルチュラル空間の中での持続、変化、創造を明らかにし報告書を作成した。（アフレ＝ハック報告は最初の報告）

研究成果の概要（英文）：In multicultural societies, Alevis which have been non-mainstream groups, have various boundaries. This research clarified perception and recognition of their own ethnicities and boundaries, and the conflicts arising from them. It further inquired into the results of it. It shows the strategies for the living of Alevis in the societies which they moved into. During this period, we have focused on Alevis in Turkey, Germany, France and Australia, the Bektashi groups in Albania, and Ahl-e Haqq in Iran. The study illuminated cultural changes, precepts and practices of both Alevis and the Bektashi in transnational and transcultural spaces as well as Ahl-e Haqq in Iran.
We produced a report paper in March 2022 of the research project on cultural, historical and religious aspects of changes and development of them. Also, our reports include such as the worship or reverence of sainthood, Ali-cult or worship of Ali, and visit-culture to mausoleums or tombs in turkey, Iran, Kurdistan and Europe.

研究分野：文化人類学、宗教学

キーワード：境界とコンフリクト　アレヴィー／アレヴィーリキ　アフレ＝ハック／ヤレサーン　エスニシティ／マイノリティ　歴史学／文化人類学　多文化共生社会　トランスカルチュラル／トランスナショナル　ベクタシ集団

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

中東はイスラームの地域と考えられるかもしれないが、むしろ多宗教社会、多民族社会、多文化社会である。その中にありながら非主流集団と主流集団との間に境界が生じ、あるいは非主流集団の中にも境界が生じ、コンフリクトが生じることがある。境界が生じると、他の集団と区別され、その集団の特徴が強調され明瞭になる。すると多文化社会の中でも諸集団間の関係をどのように調整し、調和した社会、国家を作り上げるかを考える必要がある。

本研究では、非主流集団である「アレヴィー」についての研究をさらに発展させ、アレヴィーとも関連する「ベクタシ集団」や類似するとされる「アフレ＝ハック（ヤレサーン）」について、実態調査からその文化、組織、宗教的実態について明らかにする。それによって、アレヴィー諸集団との対比、対照ができ、非主流集団をより明確に把握することが出来る。

＜アレヴィー＞

アレヴィーは集団の境界が不明瞭ながら1500万人以上いるとされる。アレヴィーに関しては、アラウィー派（ヌサイリー派）と相違し、複数の「集団」があること、その中でもトルコで最大勢力の「トルコ・アレヴィー」と「ワクフ連合のアレヴィー」について、その思想と行動について明らかにしてきた。そして、それらの持続と変容、それを取り囲む社会的政治的環境及び歴史的環境などとの関係を明らかにしてきた。これは世界の研究状況から見ても最前線の知見を示していたので、その研究をさらに発展、解明させたいと考えていた。

調査地域は、トルコ共和国を中心にして、オスマン帝国時代にはオスマン帝国の支配下にあったブルガリア、またトルコ系移民が多い西欧のアレヴィー系移民の調査をしてきた。西欧においてはドイツを中心にしてオランダ、ベルギー、イギリス、デンマーク、スウェーデン、オーストリアなどの調査、観察をしてきた。従って、さらにフランスやオーストラリアへとアレヴィー／アレヴィーリキの調査を広げる必要があった。この場合「トランスナショナル」「トランスカルチュラル」な世界・空間の研究でもあった。

ところで、アレヴィー／アレヴィーリキに関する研究は、アレヴィー／ベクタシ研究会（組織のメンバーに多少の変更、増減はあった）が研究を実施してきた。その研究は、研究代表者である佐島と研究協力者上岡弘二を中心にして 90 年代に始めていたが、2000 年に研究組織「アレヴィー／ベクタシ研究会」を組織して、それを中心にして実態調査や、研究発表会を実施してきた。2017 年に至るまで日本学術振興会の科学研究費補助金の補助を受けた期間もある。それは次の（イ）（ロ）（ハ）であり、それぞれ最終年度には、成果報告書を作成してきた。

(イ)2000（平成 12）–02（平成 14）年度、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）（海外）「アレヴィー・ベクタシ集落における伝統的文化の変化と持続に関する調査研究–トルコおよびブルガリア」（研究代表者：佐島隆）。

(ロ)2004（平成 16）–06（平成 18）年度、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）（2）「「アレヴィー・ベクタシ」集団のエスニシティと社会的文化的秩序の変化と持続――トルコ・ヨーロッパにおけるトルコ系集団を中心にして――」（研究代表者：佐島隆）。

(ハ)2009（平成 21）–11(平成 23)年度、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）（海外）「アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開–トルコ及びヨーロッパ–」（研究代表者：佐島隆）。

＜ベクタシ＞

アレヴィーはベクタシとの境界が不明瞭であったため、ベクタシ集団（ベクタシー、ベクターシュなど表記上定まっていないがトルコ語表記のベクタシとする）との関係を調査する必要があった。「アレヴィー＝ベクタシ」「アレヴィーリキ＝ベクタシリキ」などと連結されて表記されることがあったからであるが、その社会的文化的宗教的実態を明確にする必要があった。ベクタシ集団の中でもベクタシ世界センターがあるアルバニアについても調査をする必要があった。

＜アフレ＝ハック（ヤレサーン）＞

また、アレヴィーとの類似性を指摘される集団が幾つかある。その中でも、本研究組織としては実態調査や観察、参与観察など調査準備を整えてきた集団として「アフレ＝ハック」という集団があった。シーア派的な要素、生まれ変わり思想、儀礼における類似性など、アレヴィーとの類似性が言われているが、その実態を明らかにする必要があった。

「アフレ＝ハック」の実態については詳細が知られていない。しかも研究書など文献は数点あるが、現在、直接の臨地調査に基づく研究書は少ない。そこで現地における実態調査を実施したいと考えていた。特に儀礼に関しては実際の生活において参与観察をする必要があった。

＜境界、非主流集団、トランスカルチュラル・トランナショナルの空間＞

本研究は、非主流集団のエスニシティを固定したものとせずに流動的として、現地の実態調査、臨地調査に基づいて明らかにしようとするものである。その調査によって得た知見、情報、知識は従来の知見の変更を迫るものとなりうるし、新たな問題の発見にもつながり得るのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、アレヴィー諸集団をはじめとする非主流集団にかかる、様々な境界とそれに関連する軋轢、紛争について明らかにし、その解決につなげようとするものである。

非主流集団が存在する社会は、多文化社会、多民族社会、多宗教社会でもある。つまり多文化社会の中であっても、非主流集団の生存戦略を考えることになる。あるいは自らの持続的存続と、他の集団（主流集団、他の非主流集団）と、多文化社会の中で、調整、調和をとる方策を考えることになる。（マイノリティという言葉は、少数民族という意味ばかりではなく、LGBTQ などの集団であることもあるので、ここでは、非主流集団として、国家や地域集団などの中の文化集団、宗教集団、民族集団を想定する。）即ち、多文化社会の中で多様な集団が共存するための方策を探る目的を持つものでもある。

「境界」については、境界が生じることによる変化、その集団のエスニシティや集団間の関係やそれを取り巻く環境との相互作用、歴史や伝統の影響なども考慮に入れて明確にする。ということはエスニシティ自体の変化およびその動態、その変化や持続の要因についても明らかにする。エスニシティや集団性などの有り様や変化については、その集団が置かれた環境に対応、適応させながら、自分たちの文化を再編、変化、持続している様態を明らかにすることになる。その環境との相互作用の中で集団の変化や動態を明らかにすることが目的の一つである。

本研究では、非主流集団としてアレヴィー関連諸集団を中心にした。アレヴィーは、様々な関連集団から成り立っているので、これまで研究してきた中で、不十分であったトルコ共和国内の諸集団、関連するとされるベクタシ集団（トルコ共和国およびアルバニア）、アレヴィー系移民（フランスおよびオーストラリア）の実態について明らかにする。さらに、アレヴィーとの類似が指摘されることがある諸集団のなかでも、イランなどに居住すると言われるアフレ＝ハックというエスニック集団、非主流集団の実際について、臨地調査、実態調査をし、実態を明らかにし、アレヴィー諸集団とアフレ＝ハックの比較へとデータを供し、検討をしたい。

当該集団の中に所属する個人の「思想と行動」の実態を調査し、思想家や研究者の見解については実態と突き合わせ、検討する。エスニック集団の「文化」を研究し、その中でアイデンティティの変化、そしてエスニシティの変化や持続について明らかにすることも本研究の目的の一つである

３．研究の方法

本研究は、実態調査による理解、把握をし、他の集団との比較をしながら、これまでの歴史的な文献などによる把握、検討をし、それぞれの集団の文化や社会や宗教の変化、その再編成や持続、政治的歴史的な変化との関連について明らかにする。つまり、文化人類学や民俗学、歴史学など複数の研究者によって研究組織を構成して研究し、在地の一次資料を含む歴史学的な研究を視野に入れる。資料のない時期であれば、現地観察をした紀行文や調査報告などを批判的に再検討しながら「事実」を把握する。実態調査と文献研究の両面から迫るものである。

これまでの研究書であれば、一部あるいは個人の見解を全体に敷衍して考える記述が多かった。そこで実際の具体的なデータや知識によって再検討し、新たな知見を導くものである。その場合、特に臨地調査の場合には、現地の話者からの聞き取りなどが多いことから、現地語や現地の知識や感覚を必要とする。トルコやイラン、西欧（オーストラリア含む）であれば、トルコ語、クルド語、アゼリー語、ペルシア語、英独仏語などが必要になりうる。各々の地域での調査を可能とする必要な語学などの能力のある者を構成メンバーに加える。また文化人類学・民俗学などの調査であれば、調査地は男性と女性の世界が分かれることの多い世界である。つまり男女それぞれの世界を調査するために構成員に男女を含むように努める。当然のことであるが、実態調査・臨地調査をする場合には現地の人とラポールを結ぶことを考える。調査のタイミングなどもあると考えられるが、儀礼や行事などでは参与観察をおこなえるようにしたい。

調査地としては、ベクタシ集団に関しては、ベクタシ教団の名祖ハジュ・ベクタシ・ヴェリの霊廟さらにはその弟子筋にあたるバルム・スルタンなどの霊廟があるハジュベクタシ町での調査を継続、発展させる。ベクタシ集団については「ババギャーン」「デデギャーン」「チェレビーレル」の三つに分けて考えることがある。そのババギャーンはアルバニアのベクタシとも関連しており、またベクタシ教団のベクタシ世界センターの本部がアルバニアにあることからも、アルバニアにおいてベクタシ関係の文化、宗教、歴史に関する調査をする必要がある。

西欧については、これまでもドイツを始めとして調査を実施してきたが、調査をしていないフランス、同じく西欧の影響があると考えられるオーストラリアについても調査を考えたい。当初の予定ではアメリカ合衆国を想定していたが、新型コロナの関係、イランと米国との関係などもあり、アメリカ合衆国での調査の機会を得られなかった。これについては機会を改めたい。

イスラームの影響力がある国としてインドネシアも考えられるが、するとキリスト教徒の集団はインドネシアでは非主流集団となる。イスラームの影響が強い国における非主流集団・キリスト教徒集団の思考と行動についても明らかにするならば、トルコやイランにおける非主流集団との対比、比較として有益な情報、知見が得られる可能性がある。

４．研究成果

区切りとなる年度末の 2022 年 3 月に、これまでの研究成果として『報告書』を作成している。その目次を末尾に付しておきたい。それまでも研究代表者・分担者・協力者はそれぞれ、学会や研究会、もしくは研究報告や書籍において、発表、公表をしている。ここには、その一部の幾つかを加えて「4．研究成果」として記しておく。これ以外にも、口頭発表など学術研究学会、研究会、国際研究シンポジウム、研究集会などにも参加し、口頭あるいは書籍での発表をしている

のであるが、紙幅の関係で、ごく一部を示すにとどまる。なお、本研究課題の研究成果として作成した『報告書』については、その目次を後ろに付け、それに収録されている「研究報告」は『佐島編 2022 年 3 月』収録の報告論文として、次に記しておきたい。

＜アレヴィー＞

佐島隆「越境とアレヴィーリキの変化」『宗教研究　第 94 巻　第 2 輯　第 398 号』（日本宗教学会）2020 年 9 月、p.137-164。これは、アレヴィー／アレヴィーリキに関連した、この 40 年ぐらいを俯瞰し、その多様性と変化を明瞭に示した論文である。本論はアレヴィーという集団とアレヴィーリキというアレヴィー文化や考え方の変化について明らかにしたものである。この期間の二つの「越境」という事態を機縁として生じた変化について解明したものである。

またトルコ・アレヴィー研究の成果の一つは博士論文：佐島隆『トルコにおける「アレヴィー」に関する宗教学的研究―トルコ・アレヴィー、ジェム儀礼、願かけ（アダック）―』（2019 年）として博士（文学）（東北大学）に結実した。

石川真作は「戦略としてのトランスナショナリズムとジェンダー-4 ヨーロッパとトルコにおけるアレヴィーの事例から」『越境する社会運動』明石書店、2020 年 3 月 31 日、（p.123―135）において、ドイツとトルコにまたがる「トランスナショナル」な空間でアレヴィー系集団を中心にして、アレヴィーの女性に関する言説について記述している。アレヴィー系集団自体がその自己認識についても多様であるが、ムスタファ・ケマルのトルコ共和国の世俗主義とアレヴィーの「男女平等」という言説が親和性を持ち、アレヴィー集団の中では「男女平等」という言説がアレヴィーの思想的核心に位置づけられることも指摘されている。

また石川は、『佐島編 2022 年 3 月』において、フランスとオーストラリアのアレヴィー協会の調査報告を記している。フランスとオーストラリアのそれぞれのアレヴィー協会の活動と方向性、考え方について報告し、それぞれの特徴が浮き彫りにされている。

（3-1）石川真作「フランス・アルヌヴィル AKM 調査報告」『佐島編 2022 年 3 月』（p.209-226）

（3-2）石川真作「オーストラリアにおけるアレヴィー団体」『佐島編 2022 年 3 月』（p.227-265）

＜ベクタシ、アルバニア＞

齋藤久美子は、（1-1）齋藤久美子「アルバニアのベクターシュ教団」『佐島編 2022 年 3 月』（p.21-43）においてアルバニアの現地調査を報告している。そこで、アルバニアにおける「ベクターシュ」の歴史を述べ、8 月 20-25 日に行われるトモル山への巡礼祭の報告、アルバニアにある聖者サル＝サルトゥクに関連する廟・テッケなどの観察調査についても記述している。さらには、アルバニアの「ベクターシュ」とアメリカのベクタシ教団の中心的な組織の拠点デトロイトとのつながりなどについても報告している。

中山紀子は、（1-2）中山紀子「聖者への写真と手紙による祈願：2018 年アルバニア調査報告」『佐島編 2022 年 3 月』（p.45-70）において、アルバニアの調査において顕著に見られた聖者廟やテッケに飾られる「写真」について報告している。アルバニアのイスラーム関係ではベクタシにのみに見られ、アルバニアの他の宗派・教団（ナクシュバンディー等）の施設、建物の中には見られなかった。ここでは写真がどのように飾られ、それに文字がどのように書かれるのか、具体的に報告されている。写真であればキリスト教などとの関連を想像するであろうが、願かけの一つの方法であることも考えられ、その実際、実態について報告されている。

＜アフレ＝ハック＞

上岡弘二は、（2-1）上岡弘二「アフレ＝ハックの巡礼地―写真資料―」『佐島編 2022 年 3 月』（p.73-94）において、2018 年と 2019 年に臨地調査した報告をしている。アフレ＝ハック（ヤレサーン）の集団のリーダーにもインタビューをし、本格的な調査を開始したと言えよう。

Mostafa Khalili は、（2-2）Mostafa Khalili「Dissimilarities Beneath the Surface: Yaresanism Outside in Kurdistan」『佐島編 2022 年 3 月』（p.95-114）において、ウルミエ湖周辺からケルマンシャー州に至る地域（クルド人が色濃く居住する地域であるが）に色濃く分布するとされるアフレ＝ハック（ヤレサーン）の実態調査に基づく報告である。儀礼に参加する日常的な行動と思考について明らかにしている。ほとんどクルド語話者に限定されると考えられていたのであるが、アゼリー語話者の中にもアフレ＝ハックの分布が指摘されている。本報告（2-2）と次の報告（2-3）はこれまで知られていない初めての報告となった。

Mostafa Khalili と中山紀子と佐島隆の三人で調査をした現地での実際のフィールド調査の質疑応答を含む調査報告が次に示されている。（2-3）Mostafa Khalili, Takashi Sashima, Noriko Nakayama 「Voices from the Field: Ahl-e Haqqs in Iranian Azerbaijan」 『佐島編 2022 年 3 月』（p.115-162）は、実際の調査報告を記しており、これにより（2-2）の論文が作成された。

山口昭彦は、山口昭彦編著『クルド人を知るための 55 章』明石書店、2019 年 1 月 10 日を出版している。この中に山口昭彦「『真実の人々』―アフレ＝ハックの世界」（p.100-104）があり、これにより、クルド系のアフレ＝ハックの概略を知ることが出来る。その書の中には山口著のクルド関連の論考が、6 編ほど収録されている。

また山口昭彦はアフレ＝ハック研究書の古典文献を訳出している。それは（2-4）山口昭彦「[翻訳]ウラディミル・ミノルスキー『アフレ＝ハック派に関する覚書』」『佐島編 2022 年 3 月』（p.163-206）である。これによりアフレ＝ハックを記述した古典的研究を詳細に知ることが出来る。

＜境界、非主流集団、トランスナショナル・トランスカルチュラル＞

木村敏明は「越境者をめぐる語り―宣教師の成立をめぐる予備的考察―」『佐島編 2022 年 3

月』（p.269-274）において、大きくいえばインドネシア共和国における主流集団であるイスラームの中で、キリスト教が受容された問題を扱う。非主流集団であるキリスト教徒となる集団がキリスト教を受容していく時に、「宣教師伝」の作成および書き直しが行われており、理想的な宣教師像がキリスト教の「使徒」的位置に位置するようになることも指摘されている。

『佐島編 2022 年 3 月』の中に（4-2）佐島隆「トルコにおける信仰ツーリズムと「モスク・廟への参詣」に関する覚え書き」（p.275-284）がある。本論は、聖者廟への「参詣（ziyaret）、モスク・廟墓への参詣」「信仰ツーリズム」「イスラーム（シャリーア）・ツーリズム」などがある中で、トルコ共和国ブルサのエミール＝スルタン霊廟への参詣が区役所の主催する「（世俗的）旅行」とイスラームの「（信仰の）参詣」との文脈が交錯する、両者にまたがるものである、いわば「トランスカルチュラル」なものであることが描出される。また女性の「生理」が両方の文脈からもはじかれていることが指摘されている。

さらに、佐島が日本宗教学会における口頭発表論文の要旨を収録してある。次の 4 点である。

（000-1）佐島隆「アレヴィー・エスニシティの変容—生存戦略と宗教との間で—」『佐島編 2022 年 3 月』（p.285-6）：1980 年代～2020 年頃に、アレヴィーの自己認識、帰属意識、アイデンティティが揺れ動いている様子を描出する。そしてその中にスンニー派イスラームとのコンフリクト、アレヴィーであることによる圧迫などのあることが描かれる。

（000-2）佐島隆「トルコにおける「信仰ツーリズム」—世俗主義とイスラームとの間—」『佐島編 2022 年 3 月』（p.286-7）：世俗主義を国是とするトルコ共和国において、巡礼はムスリムの重要な「行」であるが、それとの関連で、信仰ツーリズムが、イスラーム・ツーリズムと世俗的な旅行との間で、両者にまたがる「行動」であることが記されている。そしてそこに、呪術的な「願かけ」「善行を積むこと」などの関連する思想と行動が具体的に指摘されている。

（000-3）佐島隆「トルコ共和国におけるアレヴィー集落における諸儀礼の変化」『佐島編 2022 年 3 月』（p.288-9）：アレヴィーの儀礼が、2000 年頃を境にして変化が生じ、さらに 2010 年頃までに、アレヴィーの儀礼に関してイスラーム的な解釈による説明が加えられることが、一部の政治的な集団からとはいえ、行われたことが指摘されている。

（000-4）佐島隆「現代トルコのアレヴィー／アレヴィーリキの形成と変化の再検討」『佐島編 2022 年 3 月』（p.289-90）：20 世紀前半のアレヴィーに関する認識が複数あり、変化していた。90 年代のアレヴィー／アレヴィーリキへと変化する前のアレヴィー認識を点描したもの。アレヴィー、クズルバシュ、アルメニア、タフタジュなどが関連していたことが指摘されている。

＜目次＞

作成した冊子は資料集が一冊、研究報告が二冊。最終の研究報告書については目次を次に示す。

佐島隆編、佐島隆、中山紀子、木村敏明、山口昭彦、石川真作、齋藤久美子、上岡弘二、モスタファ・ハリリ（Mostafa Khalili）著『アレヴィー諸集団の境界認識のコンフリクト及びエスニシティの変容—中東と欧米—』（大阪国際大学佐島研究室＋アレヴィー・ベクタシ研究会共同発行 2022 年 3 月 31 日発行）290 p.。

(00) 佐島隆「2021 年度のはじめに」(0) 佐島隆「2019 年度のはじめに」
(1)（アルバニアそしてベクターシュ教団関連など）
(1-1) 齋藤久美子「アルバニアのベクターシュ教団」
(1-2) 中山紀子「聖者への写真と手紙による祈願：2018 年アルバニア調査報告」
(2)（イランにおけるアフレ＝ハック[ヤレサーン]）
(2-1) 上岡弘二「アフレ＝ハックの巡礼地—写真資料—」
(2-2) Mostafa Khalili「Dissimilarities Beneath the Surface: Yaresanism Outside in Kurdistan」
(2-3) Mostafa Khalili, Takashi Sashima, Noriko Nakayama [Voices from the Field: Ahl-e Haqqs in Iranian Azerbaijan]
(2-4) 山口昭彦「[翻訳]ウラディミル・ミノルスキー『アフレ＝ハック派に関する覚書』」
(3) (フランスとオーストラリアのアレヴィー諸組織)
(3-1) 石川真作「フランス・アルヌヴィル AKM 調査報告」
(3-2) 石川真作「オーストラリアにおけるアレヴィー団体」
(4)（越境：異なるものや異質性、聖俗を越えて）
(4-1) 木村敏明「越境者をめぐる語り—宣教師の成立をめぐる予備的考察—」
(4-2) 佐島隆「トルコにおける信仰ツーリズムと「モスク・廟への参詣」に関する覚え書き」
(000)「補足」
(000-1) 佐島隆「アレヴィー・エスニシティの変容—生存戦略と宗教との間で—」
(000-2) 佐島隆「トルコにおける「信仰ツーリズム」—世俗主義とイスラームとの間—」
(000-3) 佐島隆「トルコ共和国におけるアレヴィー集落における諸儀礼の変化」
(000-4) 佐島隆「現代トルコのアレヴィー／アレヴィーリキの形成と変化の再検討」

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 佐島隆	４．巻 714
２．論文標題 トルコの宗教事情	５．発行年 2018年
３．雑誌名 歴史と地理　世界史の研究	６．最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐島隆	４．巻 1
２．論文標題 トルコにおける「アレヴィー」に関する宗教学的研究ートルコ・アレヴィー、ジェム儀礼、願かけ（アダック）ー	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東北大学大学院文学研究科に提出した博士論文	６．最初と最後の頁 1-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中山紀子	４．巻 vol: 7
２．論文標題 イスラームに覆われた自然崇拝ーウズベキスタンの水源信仰に関する2017年度基礎調査	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations	６．最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中山紀子	４．巻 13
２．論文標題 水への希求心ーイランにおける2015年春フィールド日誌よりー	５．発行年 2018年
３．雑誌名 貿易風ー中部大学国際関係学部論集	６．最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川真作	4．巻 XII
2．論文標題 技能実習制度における管理団体の役割と業務の実態ー管理団体関係者へのインタビューからー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東北学院大学社会福祉研究会研究叢書	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋藤久美子	4．巻 1
2．論文標題 クルド人とスーフィー教団―カーディリー教団とナクシュバンディー教団	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山口昭彦（編）『クルド人を知るための55章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 105-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋藤久美子	4．巻 1
2．論文標題 シャラフ・ハーン・ビドリースィー―あるクルド系地方領主の生涯	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山口昭彦（編）『クルド人を知るための55章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 49-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋藤久美子	4．巻 1
2．論文標題 オスマン朝治下のアナトリア南東部	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山口昭彦（編）『クルド人を知るための55章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 44-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋藤久美子	4．巻 1
2．論文標題 アナトリア南東部を歩く―一つの道がつなぐさまざまな過去と現在	5．発行年 2019年
3．雑誌名 山口昭彦（編）『クルド人を知るための55章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋藤久美子	4．巻 62
2．論文標題 トプカプ宮殿文書館の三冊の帳簿と1560年頃のアディルジェヴァズ県	5．発行年 2019年
3．雑誌名 御茶ノ水史学	6．最初と最後の頁 201-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kumiko Saito	4．巻 51
2．論文標題 16. ve 17. Yuzyillar Dogu ve Guneydogu Anadolusu ’nda Timarlarin Cesitli Bicimle Farkli Uygulamalara Tek Isim Koymak	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Osmanli Arastirmalari	6．最初と最後の頁 63-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐島隆	4．巻 10
2．論文標題 トルコにおける信仰ツーリズムと「モスク・廟への参詣」に関する覚え書き	5．発行年 2018年
3．雑誌名 異文化コミュニケーション研究10	6．最初と最後の頁 133-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐島隆	4．巻 第91巻別冊
2．論文標題 アレヴィー・エスニシティの変容―生存戦略と宗教との狭間で―」『宗教研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 367-368
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川真作	4．巻 290
2．論文標題 ドイツにおける移民の統合と新たな課題――「移民国」化から難民危機まで――	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『新しい歴史学のために』	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川真作	4．巻 29-1
2．論文標題 ドイツ在住トルコ系移民の社会的統合に向けて――ドイツ社会とトルコ系移民の関係変化―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 立命館言語文化研究	6．最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山口昭彦	4．巻 266
2．論文標題 「見えない」イランのクルド人問題 -- その歴史的背景をさぐって（特集 クルド -- 国なき民族の生存戦略）」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6．最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山口昭彦	4．巻 108号
2．論文標題 コルバル（荷担ぎ人夫）：イラン・クルド地域のかかえる深い闇	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アジ研ポリシー・ブリーフ	6．最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山紀子	4．巻 v.12
2．論文標題 テセッテュル（tesettu;r）とヒジャブ（hijab）についての覚書き	5．発行年 2017年
3．雑誌名 貿易風: 中部大学国際関係学部論集	6．最初と最後の頁 38-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村敏明	4．巻 第91巻別冊
2．論文標題 インドネシアにおける墓園ビジネスの展開	5．発行年 2017年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 p.362の1頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐島隆	4．巻 vol.13
2．論文標題 ＜書評＞大稔哲也『エジプト死者の街と聖墓参詣ームスリムと非ムスリムのエジプト社会史』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 京都大学イスラーム地域研究センター（KIOS）	6．最初と最後の頁 231-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/250339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐島隆	4．巻 第94巻第2輯（398）
2．論文標題 越境とアレヴィーリキの変化ー地域社会、都市的空間、トランスカルチュラル空間	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『宗教研究』	6．最初と最後の頁 137-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 佐島隆
2．発表標題 移民の民俗学／民族学ートルコ系移民の民俗／文化
3．学会等名 近畿民俗学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 佐島隆
2．発表標題 トルコにおける「信仰ツーリズム」ー世俗主義とイスラームの間ー
3．学会等名 日本宗教学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 佐島隆
2．発表標題 「アレヴィー」理解に向けてー観察のアレヴィーを中心にー
3．学会等名 中近東音文化研究会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 中山紀子
２．発表標題 トルコ共和国初代大統領ムスタファ・ケマル・アタテュルクの世俗化政策
３．学会等名 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 中山紀子
２．発表標題 女性と水源信仰ートルコ、イラン、ウズベキスタンをめぐる地域横断的試論
３．学会等名 2018年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木村敏明
２．発表標題 インドネシアにおける噴火災害と女神の神話
３．学会等名 2018年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐島隆
２．発表標題 トルコ・アナトリアにおける「女性」と民間信仰
３．学会等名 2018年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐島隆
２．発表標題 アレヴィー・エスニシティの変容―生存戦略と宗教との狭間で―
３．学会等名 日本宗教学会年次大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐島隆
２．発表標題 信仰ツーリズムとziyaret
３．学会等名 2017年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐島隆
２．発表標題 エルドアン主催のイフタルの政治的意味：アレヴィーのスンニー・イスラーム化
３．学会等名 2017年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 石川真作
２．発表標題 ドイツにおけるトルコ系移民の統合と新たな課題
３．学会等名 第2回グローバルリスク研究会（日本国際問題研究所）
４．発表年 2017年

１．発表者名 石川真作
２．発表標題 ドイツにおけるアレヴィーの組織化―「トランスナショナルな社会運動」という視点との関連で―
３．学会等名 イスラーム・ジェンダー科研「開発とトランスナショナルな社会運動」研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中山紀子
２．発表標題 ウズベキスタンの水源信仰についての基礎調査報告
３．学会等名 2017年度第1回アレヴィー／ベクタシ研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中山紀子
２．発表標題 トルコ文化の近代史
３．学会等名 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態シンポジウム第１回「中央アジア・中東文明の近代史」
４．発表年 2017年

１．発表者名 中山紀子
２．発表標題 アタテュルクのイスラーム政策：トルコの近代化と女性をめぐる議論を中心に
３．学会等名 2017年度第2回アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態シンポジウム「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態」
４．発表年 2017年

１．発表者名 Martin van Bruinessen (University of Utrecht)
２．発表標題 Some Striking Similarities and Possible Historical Connections between the Current Dersim Alevis, the Ahl-i Haqq or Yarsan, and the Yezidis
３．学会等名 2017年第2回アレヴィー/ベクタシ研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計7件

１．著者名 佐島隆	４．発行年 2019年
２．出版社 東北大学大学院文学研究科に提出の博士論文	５．総ページ数 183
３．書名 トルコにおける「アレヴィー」に関する宗教学的研究ートルコ・アレヴィー、ジェム儀礼、願かけ（アダック）ー	

１．著者名 山口昭彦	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 編著として338
３．書名 クルドを知るための55章	

１．著者名 中山紀子	４．発行年 2017年
２．出版社 法律文化社	５．総ページ数 p.123の1頁
３．書名 「ヒジャブが日本のファストファッションに出現！」中村都編『新版国際関係論へのファーストステップ』	

１．著者名 佐島隆編	４．発行年 2017年
２．出版社 アレヴィー／ベクタシ研究会刊	５．総ページ数 540+4
３．書名 アレヴィー／ベクタシ等エスニック諸集団関連資料集　第2輯	

１．著者名 齋藤久美子著（鈴木董編）	４．発行年 2017年
２．出版社 清水書院	５．総ページ数 300-9 と312-22の部分
３．書名 『悪の歴史 西洋編（上）・中東篇』の「セリム一世」と「シャー・イスマーイール」の部分	

１．著者名 木村敏明、早川敦、共訳（キャサリン・ベル著）	４．発行年 2017年
２．出版社 仏教出版	５．総ページ数 --
３．書名 儀礼学概論	

１．著者名 佐島隆編　佐島隆、中山紀子、木村敏明、山口昭彦、石川真作、齋藤久美子、上岡弘二、Mostafa Khalili	４．発行年 2022年
２．出版社 大阪国際大学佐島研究室＋アレヴィー／ベクタシ研究会	５．総ページ数 290
３．書名 アレヴィー諸集団の境界と認識のコンフリクト及びエスニシティの変容ー中東と欧米ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中山　紀子 (Nakayama Noriko) (00288698)	中部大学・国際関係学部・教授 (33910)	
研究分担者	山口　昭彦 (Yamaguchi Akihiko) (50302831)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	
研究分担者	石川　真作 (Ishikawa Shinsaku) (20298748)	東北学院大学・経済学部・准教授 (31302)	
研究分担者	木村　敏明 (Kimura Toshiaki) (80322923)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	上岡　弘二 (Kamioka Koji)		
研究協力者	カリリ（ハリリ）　モスタファ (Khalili Mostafa)		
研究協力者	齋藤　久美子 (Saito Kumiko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	アスラン　シュクリュ (Sukru Asalan)		
研究協力者	ブライネセン　マーチン (van Bruinessen Martin)		
研究協力者	上原（鈴木）　三紀子 (Uehara Mikiko)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 日本・トルコ・インドネシアの大震災に関する比較研究	開催年 2018年～2019年
国際研究集会 2017年度第2回アレヴィー/ベクタシ研究会	開催年 2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関